

## 令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校名	富士市立高等学校	校長名	櫻井 祥行
-----	----------	-----	-------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生活習慣の確立	・朝読書の遅刻者延べ数各学年120人以内	12月21日現在現在 遅刻延べ人数 1年：291人 2年：133人 3年：510人	教務 情報図書 保健環境 学年 C	朝読書は、大切な活動のひとつである。生活習慣を確立するためにも粘り強く指導していく必要がある。昨年総数456人、本年934人。
ア	学校の安全安心	・朝の交通街頭指導（年間200回以上）、自転車事故件数（昨年度より減）	交通街頭指導162回 自転車安全指導カード（33→43件） 自転車事故件数（11→8件）	生徒 B	年間を通して、朝の交通街頭指導や、交通講話、命のメッセージ展等の安全指導を実施したが、事故や地域からの苦情はなくならなかった。
		・情報交換会を毎週1回実施	令和6年1月末現在で22回開催	教育相談 A	各学年の情報を交換しながらその場ですぐに解決策や経験談などの意見交換ができ、有効に時間を使うことができた。
		・学年別に実施する保健講座後の意識向上率20%	1年：性に関するアンケートより 2年：人間関係作り 3年：卒業に当たり2月実施予定	保健環境 B	1年生は初めて外部講師を依頼し最大で32%と大幅な意識向上が見られた。
		・「学校に困ったことや悩み事を相談できる人がいる」生徒85%	全体 90.2% 1年 88.8 2年 88.7 3年 93.3	教育相談 A	アンケートを適切に行い、必要に応じてSC等との面談を実施して、困った時には相談できる場所があることを伝え続けた結果だと思われる。
		・いじめを理由とする不登校、転退学者ゼロ ・体罰ゼロ	・いじめを理由とする不登校転退学者数0人 いじめ ゼロ 体罰 ゼロ	教頭 教務 教育相談 A	生徒からの相談に対して迅速に丁寧に対応した。また、外部機関と連携を図った。今後もいじめ、体罰撲滅に向けて継続的に予防対策を行う。
		・面接週間を年2回以上実施	1、2学期開始時に設定	教育相談 A	年度当初、夏休み明けという時期に生徒の変化を見ることができた。

様式第3号

ア	職員の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>午後8時以降に残留する職員の減少</li> </ul>	週3日以上午後8時以降残留することはない。 担任 83.8% 副担任他 81.8%	管理職 A	業務全体の見直しと効率化をさらに進める必要がある。
ア	学校未来プロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校行事・部活動に満足している」生徒 90%</li> </ul>	学校行事 92.9% (1年 94.0%, 2年 92.1%, 3年 92.3%) 部活動 91.6% (1年 91.4%, 2年 90.6%, 3年 92.8%)	教頭 生徒 学科 学年 部活動活性化 A	行事、部活動の満足度が上昇した。部活動の本来の活動に加え、地域貢献活動を行う部活動、生徒が増加した。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>国内探究研修の充実(生徒の満足度 90%)</li> </ul>	総合探究科 99% ビジネス探究科 99% スポーツ探究科 100%	学科 学年 A	昨年度の反省を生かし、事前の研修を十分に行うことで学科の特徴を生かした探究を実践した。
イ	生徒の自主性・協調性及び目標に向かって挑戦する意欲と態度を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の将来に対する、はっきりとした夢や希望を持っている」3年生徒 80%</li> </ul>	生徒アンケート結果 87.1%	キャリア 学科 学年 A	進路指導を通じて、正しいキャリア意識の育成を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校での学びをきっかけに、さらに学びたいと思う」生徒 60%</li> </ul>	生徒アンケート結果 1年 73.0% 2年 80.8% 3年 79.4% 全体 77.5%	企画研究 学科 学年 A	経年変化を見てみると 3年生 54.4%→62.5%→79.9% 2年生 69.7%→80.8% と学年が上がるごとにポイントが上昇している。このことから本校での教育効果が確認できる。
イ	高い志のもと進路実現のための進路啓発及び実績の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生への進路啓発行事年2回以上</li> </ul>	土曜学習に加え、キャリア講演会や分野別研究、卒業生講話等、進路を考える機会を増やすことができた。	キャリア 学科 学年 A	土曜学習では、卒業生講話が生徒にとって有益な情報源となっている。普段の授業や学級活動においても進路を意識させる。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>進学(四大 100名以上)及び就職内定率(100%)</li> </ul>	12月11日現在 71名 1名は体調面を考慮し就職せず。	キャリア 学年 B	総合型選抜や学校推薦型選抜に加え、一般選抜で国公立大学を狙える生徒を育てていく。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>全商簿記検定2級合格率 70%</li> </ul>	簿記検定合格率 2級 50%	商業科 C	学習に取り組む姿勢は良好であったが、思考力を問われる問題への対応が課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>英語資格・検定試験の準2級以上の受験者 150人、合格率 40%</li> </ul>	受験者数 147人 合格率については、25.5%であった。(第2回まで)	英語科 B	目標にした受験者数はおおむね達成することができたが、合格率は伸びなかった。引き続き検定を意識させるよう指導を続ける。

様式第3号

ウ	学習習慣の確立	・週に5日以上、家で勉強している生徒60%	1年：29.2% 2年：38.4% 3年：42.8%	教務 学年 C	学校全体で36.3%。各教科で家庭学習につながる授業や課題等を工夫する必要がある。
		・平均90分以上家庭学習を行う生徒、各学年50%以上	1年：15.0% 2年：25.8% 3年：43.0%	教務 学年 C	家庭学習時間を毎日調査し、個々の生徒への声掛け等を行ったが、目標を達成することができなかった。
ウ	魅力ある授業実践と授業力向上	・80%以上の生徒が「授業に満足している」と答えた教員80%以上	授業アンケートの結果 R2 94.1% R3 97.0% R4 91.3% R5 90.0%	企画研究 教務 A	授業に関する詳細な質問については「先生は熱意をもって授業を行ってくれる」「説明は組立や例示、図表の使用などが工夫されていてわかりやすい」といった項目の評価が高かった。
		・新教育課程の見直し	新課程が2年次まですすみ、新観点別評価方法の在り方について教科間で情報を共有した。	教務 B	取り組みの状況を踏まえて、来年度新教育課程完成に向けて課題の検討、評価方法の見直しを行う。
		・「課題解決の道筋を予測し、課題を解決するための計画を立てることができる」生徒75%	生徒アンケートの結果 R1 75.7% R2 85.0% R3 78.5% R4 83.2% R5 84.9%	企画研究 指導主事 学年 A	探究学習において、「論理的な道筋の予測」はディベート、「課題解決のための計画」は市役所プランで主に扱っている。毎年、目標を達成できている。
		・探究学習（「ディベート」「市役所プラン」「自分スピーチ」及び教科「探究」）の充実（	毎週行われる会議で授業内容を見直した。授業での活動成果を究タイム発表会などで発表した。	企画研究 指導主事 学年 A	会議を行うことで、授業内容の改善ができた。多くの生徒が課題を見つけ、情報を収集してまとめるスキルを身につけ、主体的に探究学習に取り組むことができた。
エ	家庭・PTA組織・中学校・地域との連携	・PTA後援会合同総会・懇談会の出席率50%	今年度は総会、学科別説明会、懇談会を同日で開催した。総会は約19%、学科別説明会と懇談会は約30%の出席率だった。	総務 B	平日開催で共働きの保護者も多く出席が難しいこと、また、学校行事や三者面談等で保護者が来校する機会も確保されていることもあり出席率は良好ではなかった。出席できなかった保護者には確実に資料が渡るよう担任・分掌と連携をとっていきたい。
		・「本校が地域に開かれた学校と感じる」保護者85%	保護者アンケート 1年86.0% 2年88.5% 3年89.1%	教頭 地域交流 A	積極的に行っている地域交流活動が認知されてきている。地域交流を更に充実させ、広報活動を積極的に行いたい。
		・地域交流の実績40回以上	①「多世代交流サッカー」17回実施 ②「人工芝で遊ぼう」2回実施	地域交流 A	①「多世代交流サッカー」延べ479人参加(1月末現在) ②「人工芝で遊ぼう」一般親子52組計106人・ひな保育園72人・富士市立昭和幼稚園20人参加

様式第3号

			③「学校 De 遊ぼう、学ぼう」3回実施 ④「Def（聴覚障がい者）キッズサッカー教室」6回実施⑤部活動を含むの地域交流事業 85回		③「高校 De 遊ぼう、学ぼう」小学生 70名参加 ④「Def（聴覚障がい者）キッズサッカー教室」107名参加（参加者・保護者・主催者含む）  ※地域交流事業すべてにおいて本校生徒参加人数述べ 1212人、地域住民（観戦者含む）参加人数述べ 2468人（1月末現在）
		・「学校運営協議会の提言が学校運営に反映されている」と回答する委員 90%	協議会後に委員アンケートを実施。100%	副校長 指導主事 A	協議会の議論を意識して改善している。 協議会のあとすぐに対応している。
		・HP 更新週 3回以上	ほぼ毎日、授業、行事、部活動の活動等を投稿	教頭 情報図書 A	年間約 500 件の投稿を行った。 月平均 8,500 件のアクセスがあった。
		・学校見学会アンケート満足度 80%以上	9 回の学校見学会に中学生 184 人が参加し、満足度 92%	教頭 A	施設や探究学習、部活動、生徒による施設見学が好評であった。参加者は昨年度から 12 人増加。
		・中学校への説明会での若手教員及び生徒の活用	11 中学校での説明会に参加し、7 人の若手教員による探究の授業体験を実施した。生徒は自分スピーチの発表をした。	副校長 A	本校の探究学習紹介＋探究の体験授業を実施した。実施可能な場合には、3 年生による自分スピーチも発表した。
エ	家庭・PTA組織・中学校・地域との連携	・体育館・グラウンドの一般開放年間 200 日以上	4～12 月 体育館：217 日 グラウンド：260 日	事務 A	通年で開放できた。
		・庭球場の一般開放年間 180 日以上	4～12 月 庭球場：238 日	事務 A	スポーツクラブのテニス教室の開催回数が増えたことによる。
オ	適正な事務の執行	・消防設備点検・建築物定期点検による指摘箇所の改善 100%（既存不適合を除く）	・消防設備点検 指摘 10 箇所→対応済又は対応中 3 箇所 ・建築物定期点検 指摘 7 箇所→対応済又は対応中 7 箇所	事務 B	消防設備については、重要度及び緊急性を考慮した優先順位をつけて予算残額の範囲内で実施中である。
		・電気使用量を前年度比減	4～12 月：520,179kwh 前年度比 4,636kwh の増 ※3年度 515,543kwh	事務 B	エアコンの温度調整や不要な照明の消灯など節電意識を高める必要がある。
		・コピー機の利用枚数を前年度比減	A4換算で 4～12 月：1,352,000 枚 前年度比-177,275 枚 ※3年度：1,529,275 枚	事務 A	1 人 1 台端末をはじめとしたデジタル化の推進により大幅な削減が実現できた。